

基本理念

目的（存在理由）

社会への貢献

わたしたちは
社会に役立ち、人々の心や暮らしを豊かにし、
よって社会に貢献することを目的とします。

基本的価値観（不変の主義）

1 開拓の精神

わたしたちは、失敗を恐れず、情熱を持って、
未開の地（新しい分野）に挑戦することを誇りとします。

2 不断の努力

わたしたちは、弛みない努力によって、
困難に打ち勝ち、目的の実現に至ることを喜びとします。

3 誠実な意志

わたしたちは、わたしたちを支える人々*に対し、
揺らぐことのない誠実な意志によって行動します。

*「わたしたちを支える人々」とはステークホルダー
（お客様、サプライヤー、株主・投資家、従業員とその家族など）を指します。

株主の皆様へ



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに第42期（平成22年4月1日～平成23年3月31日）
年次報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当事業年度における日本経済は、企業収益の改善や設備投資の持ち直しなど緩やかな景気の回復が見受けられたものの、円高の影響や厳しい雇用環境が継続するなど、足踏み状態となりました。また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災は甚大な被害を与え、今後の景気動向をより不透明にすることとなりました。

このような状況の中、応急仮設住宅の建設をはじめ、震災復興に必要な仮設建物の建設が社会的な要請として高まってきています。必要な時に必要なスペースを必要な設備とともに提供する——当社のユニットハウスは、このよ

うな有事の際にも役に立つと確信し、被災地および日本の復興に向け、全社一丸となって努力しているところです。

今後とも創業当時から受け継がれてきたフロンティアスピリッツ（開拓の精神）を原点に、社会に貢献する会社を目指し、失敗を恐れず情熱をもって活動していきます。

当事業年度（平成22年4月1日～平成23年3月31日）の業績について

当社では、ここ数年来、展示場やトランクルームを出店し、販路の拡大を図るとともに、本建築市場・不動産市場の開拓を継続してまいりました。今期は、このような取り組みが着実に実を結びつつあります。

ユニットハウスのレンタルにおきましては、建設業界向けの仮設レンタル市場において、シェア拡大を目指し受注促進を図る一方、イベント業や不動産業など期間限定で空間を必要とするお客様への受注活動も積極的に推進し、出荷棟数が前年同期比13%増となりました。さらにトランクルームを25店舗出店するなど売上拡充に努めましたが、建設業界向けの仮設レンタル市場での、競争激化に伴う受注単価の下落は予想以上に厳しく、当事業年度のレンタル料収入は9,755百万円（前年同期比1.4%減）となりました。

ユニットハウスの販売におきましては、当社直営の展示場を14店舗出店するとともに、建機リース会社などの代理店やホームセンター等と提携し、新たに50ヶ所以上の提携先の展示場に当社のユニットハウスを展示するなど、販売チャネルの拡充に努めました。その結果、当事業年度の製品売

上高は5,327百万円（前年同期比17.4%増）となりました。

また、東日本大震災の影響により、レンタル・販売物件に延期や中止が相次いだことや、応急仮設住宅建設への対応のため、一時的にユニットハウスの出荷を制限したこと、今期の業績に影響を与えることとなりました。

これらの結果、ユニットハウス事業の当事業年度売上高は15,082百万円（前年同期比4.5%増）となりました。一方、立体駐車装置事業の当事業年度売上高は299百万円（前年同期比38.7%減）となり、当事業年度の売上高は15,381百万円（前年同期比3.1%増）となりました。

利益面におきましては、全社的に諸経費の削減と効率化に取り組みましたが、営業利益502百万円（前年同期比11.5%減）、経常利益454百万円（前年同期比10.3%減）となりました。また、東日本大震災の津波被害で喪失したレンタル資産の除却損を特別損失に計上した結果、当期純利益は170百万円（前年同期比18.7%減）となりました。

今後とも、リユース可能なユニットハウスの特長を活かして、期間限定で空間を必要とするニーズを開拓し、業績の拡大に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導・鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

平成23年6月

代表取締役社長 長妻貴嗣